

寒林小唱

三好達治

青空文庫

山雀の嘴^{はし}をたたきし板びさし
はたやくだりし黄なる枯芝

裸木の朴^{ほほ}のこずゑはゆれてあれ
その青空をとぶ雲もなし

鴉なく櫟^はばやしのあらきみち
けうとかりけり陽はてれども

さねさし相模の山よ來る小鳥
たかき空よりまひくだりけり

はらはらと空よりくだる小鳥あり
やがてかしこにしばなきにけり

この庭は鶺鴒ひたぎのとりの一羽きて
あそぶ庭なりひるをひねもす

宵ながら怠りてふすかり臥しの
山のしじまのきはまりもなし

むらぎものこころいこはずいくとし月
すぎこしはてのこの疲れかも

おほよそは古きうれひも忘らへし
旅寝たびねごころや山の端に臥す

晝の間は鶺鴒のとりのきてなきし
林のおくにわがひとり臥す

峽をゆく^{たく}柝の音あはれ艸まくら
林の奥に臥すもあはれや

一山をゆるがしすぐる風のこゑ
しましはやがてひそまりにけり

風の日は鷓のとりも來てなかぬ
林の宿のおちるなやあな

遠とほに大^{おほ}砲^{づつ}の音すなりけり
鶉^うどりのむれものの實をはむ

夕陽落つ冬木のなかの朴の木に
鴟^{もず}のしまらくゐてもだしたり

冬木立ひとまはりして周章と
啼きてさりける椋のとりはや

枯芝のかのふる椅子に今宵また
下りたち^{くろつぐみ}にける 黒 鶇 どり

夕庭に婆娑とくだりし鳥かげの
やがてひそけし埒とむらん

母ひとりはるばるとふるさとより僑居を
訪なひたまふ乃ち一日鎌倉に遊ぶ

母として長谷観音のおみ足に
らふそく獻ず冬の日の暮れ

るしやな彿露座にておはすおん前に
腰くぐもれる母のあゆます

また一日さる出湯にて

ざんぎりの髪を洗はせたまふなり
ははそはのははの老いたまひけり

青空文庫情報

底本：「三好達治全集第一巻」筑摩書房

1964（昭和39）年10月15日発行

底本の親本：「定本三好達治全詩集」筑摩書房

1962（昭和37）年3月30日

※誤植を疑った箇所を、「三好達治全集第一巻」筑摩書房、1976（昭和51）年10月10日第2刷の表記にそって、あらためました。

入力：kompass

校正：杉浦鳥見

2019年11月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<https://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

寒林小唱

三好達治

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>